

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒750-8512
 住 所 山口県下関市東大和町1-10-12
 氏 名 株式会社 松岡
 代表取締役 松岡隆雄
 (代理人)東京湾岸物流センター所長 谷垣大輔
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 松岡		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区東扇島88		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	自社冷蔵倉庫を基盤とする総合物流サービス		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,089	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	2020 年度 ~ 2022 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

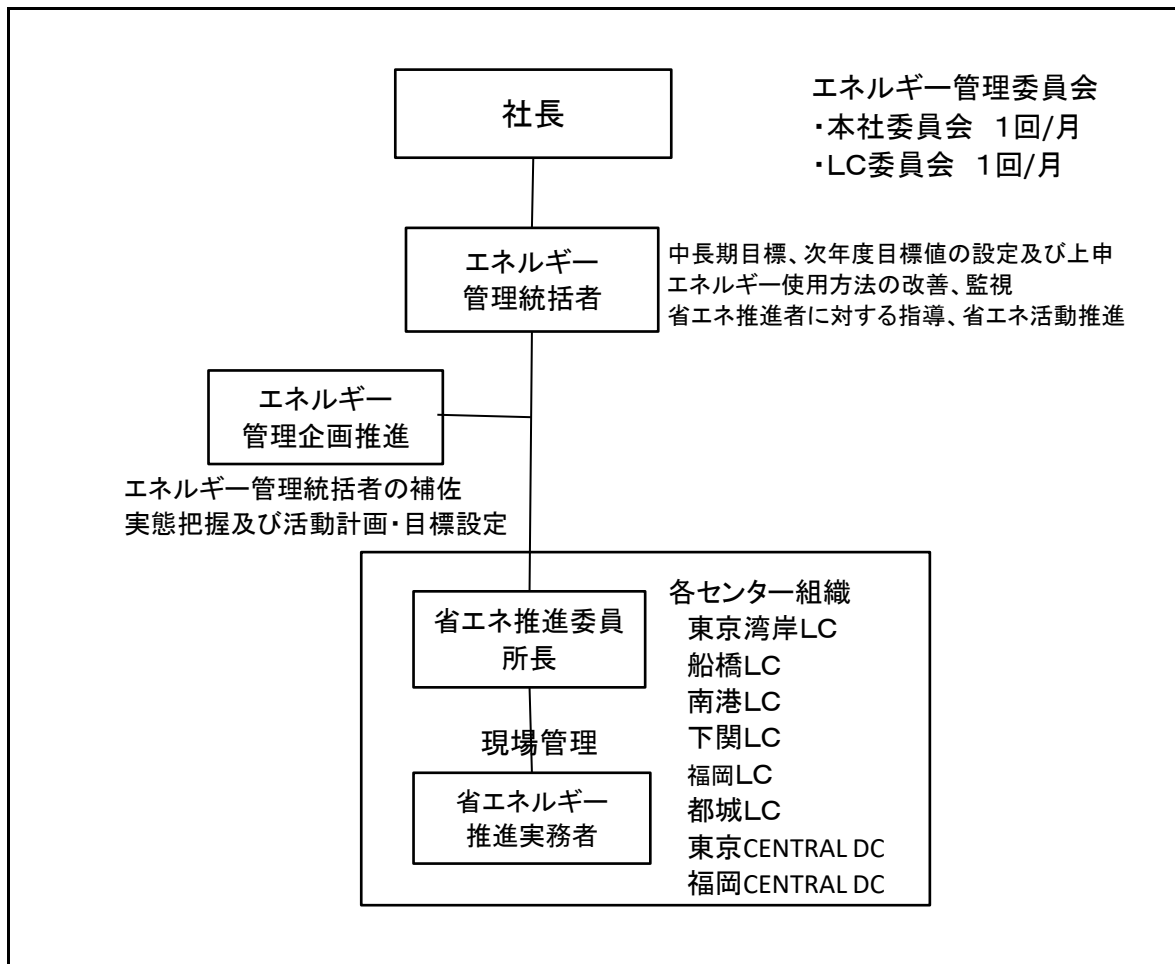
(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

- 1) 【環境理念】 企業活動に必要な原材料・諸資材・エネルギー等、資源を有効使用し、使用量の削減や再利用に取り組み環境保全と企業活動の両立を図ります。
- 2) 【行動方針】 (1) 自然環境の保全と、資源の持続的利用に配慮した活動を推進します。
- (2) 省エネ、省資源、廃棄物の削減、容器包装の減量化等による環境負荷低減活動を通じ、循環型社会形成に向け、継続的に努力します。
- (3) 環境マネジメントの仕組みを構築し、その効果的な運用を目指します。また、環境監査を実施し、環境関連の法規制等の遵守を徹底します。
- (4) 環境教育を通じて、社員一人一人の環境意識の向上を図ります。
- (5) 社会に対して、環境コミュニケーション活動を行うとともに、地域社会との環境に配慮した共生を重視して行きます。
- 3) 【エネルギー管理方針】 資源を大切に、持続可能な社会の構築に貢献します。また、化石燃料を由来とするエネルギーの使用の一層の合理化に努めます。
- (1) 全社エネルギー管理体制を整備し、総合的なエネルギー管理と省エネルギー活動を強化します。
- (2) エネルギー管理規定及び管理標準を設定し、これに準じた運用管理を行います。
- (3) エネルギーを消費する設備の新設・更新時には、エネルギーの利用効率に優れ、ライン全体でも効率が上がるものとします。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

- (1) エネルギー使用の合理化の取り組みを示す【エネルギー管理基本方針】を定め、エネルギー消費原単位の改善を図ります。
- (2) 省エネルギー活動については、毎月のエネルギー使用量の実績管理と、前年同月実績との比較検証、増減の原因を究明するとともに、その結果を毎月実施されるISOマネジメントレビューにて成果報告と課題・原因の分析を行い、改善活動につなげます。
- (3) 当該年度終了後のISOマネジメントレビューにて年間のエネルギー使用量の実績を報告、検証を行い、年度計画の見直しを行います。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2019				年度
目標	年度	2022				年度
基準	排出量	(実)	3,854	(実)		
		(調)	4,072 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実)	3,740	(実)		
		(調)	3,950 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削減量		(実)	114 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実)	114 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実)	3.0 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		(入在庫数量/4)+收容能力			
原単位の単位		t-CO ₂ /t			
基準年度の値		0.01552			
目標年度の値		0.01500			
削減率		3.4 %			

ウ 目標設定に関する説明

設備の改修として、外気侵入対策工事によるフロア空調用冷凍機の運転時間削減、熱交換機の容量増大工事による水槽ヒーターの稼働時間の削減で100tの削減を計画しています。
また、運用面として、事務所の空調温度の適正管理、昼休み消灯、現場においては昼休み消灯、不要箇所の消灯、防熱扉の開放時間削減や外気侵入対策による冷凍機運転機会の削減により、14tの温室効果ガスの削減を計画しています。

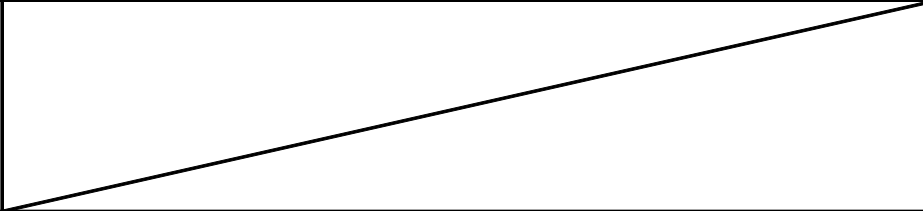
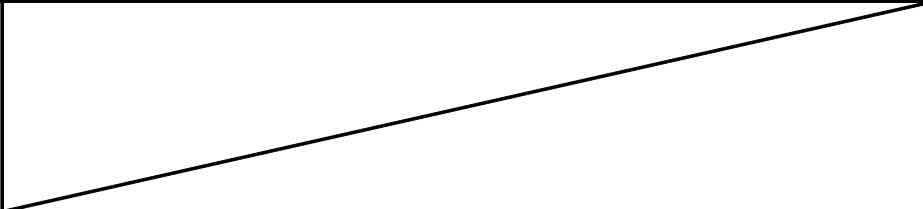
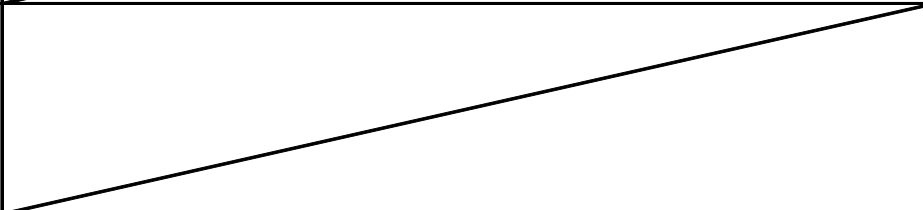
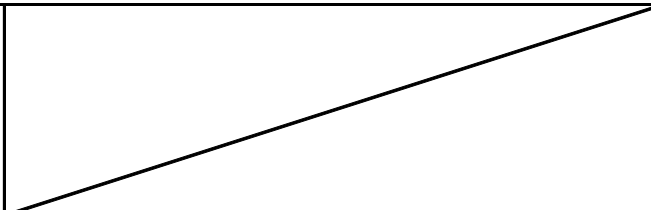
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

冷凍設備、照明設備を主とする電力使用設備の適切な運用、及び効率よく能力を発揮できるように保全を図り、原単位の前年比1%削減を目指します。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●照明の消灯 事務所・現場の昼休み中の消灯、荷主からの依頼状況に伴って出入庫作業の間隔があき、荷役作業に影響を与えない箇所の消灯徹底を図る。 ●事務所空調機の適正な運転 事務所の温度設定を適正化して空調機器の過剰運転を防止する。 ●トラックバースからの外気侵入対策の徹底 ●トラックバースの外気侵入対策工事(除湿クーラー設置) トラックバースからの外気侵入を抑え、フロアの温度上昇を抑える。 ●防熱扉の開放時間を減らす 各庫防熱扉の開放時間を減らして、庫内温度の上昇を抑える。 ●デフロスト水槽水温の昇温熱交換機の増設 冷凍機排熱の利用向上を図り、電熱ヒーターの稼働時間を減らす。
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<ul style="list-style-type: none"> ●全トラックバースにエアシェルターを装備し、気密性の向上を図る。(2013年) ●全館LED照明の導入(2013年) ●移動ラック閉鎖部を消灯する連動照明採用(2013年) ●移動ラック駆動電気回路へのACリアクトル装備に伴う総合力率改善(2013年) ●垂直搬送機のバランスウエイト調整することで出力を低減させた駆動機構採用(2013年) ●庫別集中温度計測・管理システムによる細かい温度設定・管理(2013年) ●トラックバースの外気侵入対策工事(扉パッキン交換)(2018年) ●トラックバースの外気侵入対策工事(フロア間仕切設置)(2019年)

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	屋上に総出力750kwの太陽光発電設備を設置し社外への電力供給を実施中。
風力		
バイオマス		
未利用エネルギー		
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

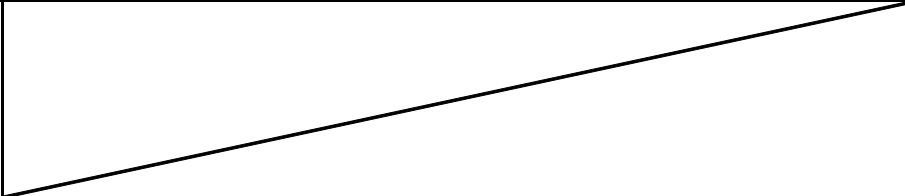
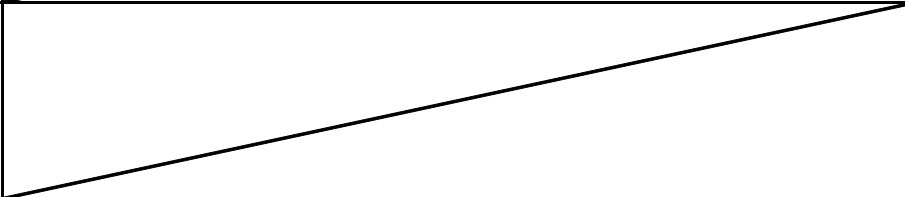
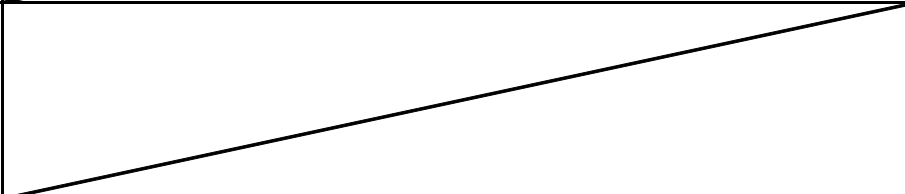
種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	屋上の総出力750kwの発電設備を設置	2016年

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

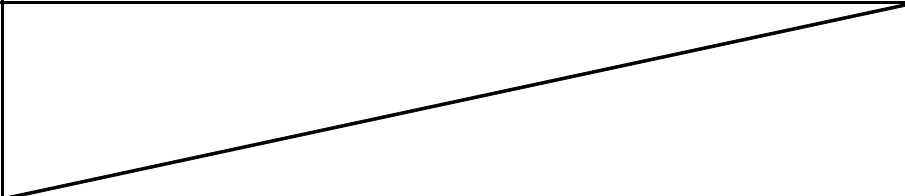
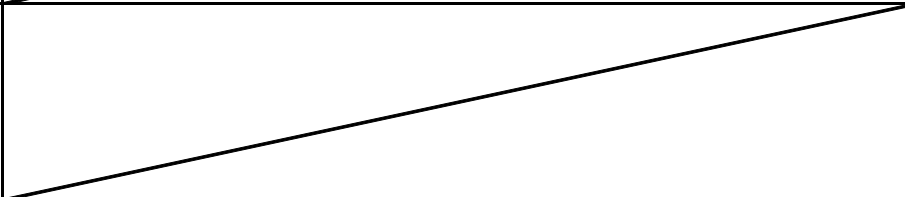
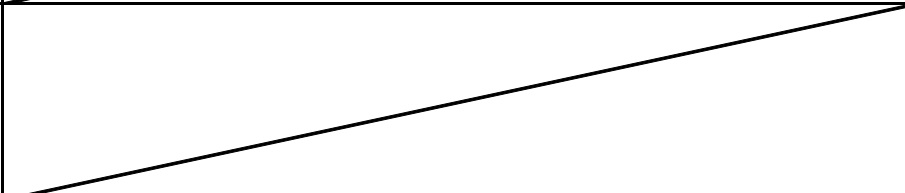
(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

<p>計 画</p>	<p>●荷物の受入れや保管で発生する廃棄物の分別リサイクルをすすめ、ごみの減量化を行います。(ダンボール、ストレッチフィルム、PPバンド、O A用紙)</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

<p>計 画</p>	
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	3,854	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

2,089	K L
-------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
東京湾岸物流センター	川崎市川崎区東扇島 8 8	3,854 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂